

<2015 年度 ON-PAM 委員会活動計画>

2015 年 3 月 16 日

ON-PAM 委員会室

ON-PAM では設立からの 2 年間、文化政策、国際交流、地域協働の三つの委員会を立ち上げ、それぞれ年 3～5 回の委員会を開催してきました。

設立当初から、委員会活動は ON-PAM の中核を担うものと位置づけられ、実際に多くの成果を残すことができました。

2015 年度の委員会活動では、その成果を踏まえ、さらに課題や反省点も考慮したうえで、ON-PAM の活動をさらに進めるために新たな形で実施していきます。

■これまでの委員会活動の整理

1. 委員会活動が果たしてきた役割

(1) 会員間の交流

多くの会員が集まる総会やシンポジウムなどとは異なり、比較的少人数が集まる委員会では、会員同士の交流や意見交換が積極的に行われました。ネットワークを体現する場と言えます。

(2) 舞台芸術をとりまくテーマを掘り下げる

3 つの委員会において、それぞれの切り口から同時代の舞台芸術について学び、考える場を提供しました。

(3) 現場を知る

特に地方において会員が関わる舞台芸術の現場を訪ね、その取り組みを知るとともに、より普遍的な議論のヒントを見つけました。東京以外の開催地は、仙台、横浜、京都、神戸、城崎、鳥取、山口／北九州など。

2. 課題

(1) 会員の参加

委員会ごとに開催地と日程を決めていましたが、直前に日程が発表されたり、東京に開催が集中する委員会があったり、なかなか参加できない会員も多かったようです。

(2) 委員会への所属と継続性

会員は各自一つの委員会に所属することになっていますが、所属以外の委員会にも参加可能なので、自分が参加可能な時間と場所で選んでいることも多かったようです。その結果、継続的な活動や議論が難しい委員会もありました。

(3) テーマの重複

異なる委員会でも、特に国際交流と地域協働委員会では、取り上げるテーマに類似したものが多くみられました。共通の問題意識があるということの裏返しでもあるので、合同での委員会開催も実施しました。

(4) 委員会による具体的な活動(アクション)

各委員会とも、委員会での議論を調査や政策提言といったより具体的なアクションに結びつけることも目指しましたが、なかなか思うように進まなかったというのが現状ではないかと思えます。

■2015年度の委員会活動について

委員会活動の実績や状況を整理したうえで、2015年度は三つの委員会を統合して活動を行います。

1. 活動方針

(1) 学びと交流の場に

→ これまでの委員会の役割を踏襲し、今日の舞台芸術に関するテーマについての理解や議論を深め、会員間の交流をすすめることを目的とします。この委員会活動をネットワークの基盤として、ON-PAMの他の事業やプロジェクトへと反映させていきます。

(2) 継続的な議論を

→ おもに過去2年間の文化政策委員会での議論をもとにして、今後のON-PAMの活動につながるテーマを取り上げ、一年を通して議論していきます。

(3) 会員が委員会に参加しやすい環境を整える

→ 全7回の開催日と開催地を年度当初に告知するほか、会員が少ない地域からも議論に参加しやすい体制を作ります。

2. 活動の内容

設置する委員会は一つとし、計7回開催します。

7回の委員会は、一つのテーマを掘り下げて継続的に議論する【テーマ委員会】(計4回)と、特色ある取り組みや地域で行われている活動の現場を訪ねるなど、1回ごとに異なる内容で行う【企画委員会】(計3回)で構成します。

そのほかに、委員会で議論される内容に対してサテライト的な役割を果たす場を、それぞれの地域にいる会員が主体的に設ける取り組みを行います。(「サテライト委員会」)

3. 開催時期と開催地

■4月 【テーマ(1)】 東京

■4月 【企画(1)】 静岡

■6月 【テーマ(2)】 関西

■8月 【企画(2)】 高知

■9月 【テーマ(3)】 東京

■11月 【企画(3)】 東京

■12月 【テーマ(4)】 東京

※サテライト委員会は、テーマ委員会の前後に開催。開催候補地：沖縄、仙台、東京、京都、神戸など。

4. 運営方法

- ・理事会内に設ける委員会室が、全体の日程調整や予算管理を行う。
- ・委員会室メンバーを中心に運営チームを作り、1回ごとの開催実務を担う。
- ・委員会は会員(正会員・賛助会員・学生会員)によって構成されるが、企画委員会や地域部会については、会員以外の参加を呼び掛ける場合がある。
- ・地域部会については、該当する地域の会員に呼び掛け、自主的に運営を行う。(一部経費はON-PAM予算を充当する。)

■テーマ委員会の年間テーマについて

今年度のテーマ委員会では、「あたらしい制作者」像について、1年(全4回)かけて議論をしていこうと思います。

ON-PAMでは現在、「アドヴォカシー」を活動の柱の一つにすえています。

舞台芸術の環境を整備したり制度を変えていくために、積極的に提言を行っていこうということです。

しかし、そのためには、我々自身の立ち位置をもっと明確にし、それを表現できる言葉を獲得する必要があるのではないか。そのような問題意識のもと、「あたらしい制作者」というキーワードを手がかりにして、自分たち自身、そして舞台芸術の制作という自分たちの仕事について考えてみようというのが、今年度のテーマ委員会の目指すところでは。

その過程では、「あたらしくない」ことについても学んでいきます。舞台芸術の歴史に触れ、制作という仕事を確立させてきた先輩たちの話を聞くということです。

また、自分たちのことだけでなく、俳優や演出家、舞台スタッフなど、一緒に舞台を作る人たちの仕事についても考える必要があるかもしれません。

そのようにして積み上げられた議論を将来的な提言などにつなげ、外部に発信していきます。

ぜひ、ON-PAM全体でこの議論を深めていけたらと思います。